

来年、合同でチベットの未踏峰に挑む神戸大と中国地質大武漢校の関係者たち―神戸市灘区の神戸大



未踏峰 日中で挑む

神戸大と中国地質大武漢校(湖北省武漢市)の合同登山隊が来年、中国チベット自治区にある「カンリガルポ山群」の未踏峰に挑戦する。神戸大登山部の創部100周年記念事業で、日中学生の友好交流も目的だ。2009年にも同山群の別の山で、合同登山隊が初登頂を成功させており、今回は推定標高6536メートルのピークに挑む。

神戸大山岳部100周年 来年チベットで

実行委員長の山形裕士・神戸大教授によると、同山群はヒマラヤ山脈の東側。全長約280キロに、6千メートル以上の山が少なくとも47座、確認されている。インドとミャンマーとの国境に接しており、長く外国人の立ち入りが制限されてきたことなどから、09年に合同隊が初登頂した「ロプチン峰」(標高6805メートル)以外は未踏峰という。

神戸大山岳部は1915年の創部。同部とOBによる山岳会はこれまで、7千メートル二つを含む、六つの未踏峰の初登頂を成功させてきた。今回挑戦するのは、チベット最大の氷河とされる「拉古(ラグー)氷河」の最奥にある、「KG-17」という仮の名前で呼ばれている山だ。



カンリガルポ山群の「KG-17」=神戸大提供

山形教授は「未知への挑戦が我々の目標。カンリガルポ山群はどの山も積雪量や雪崩が多く、非常に危険だが、若手でも登れる山として選ん

武漢の大学と合同 交流育む

だ」と話す。神戸大と中国地質大は86年にヒマラヤのクーラカンリ峰(7554メートル)の初登頂に成功するなど、長く交流している。今回は、2009年にも登山隊長を務めた井上達男山岳会長(66)を総隊長に、神戸大からは山岳会員や現役の山岳部員ら7人程度が参加する予定だ。

4日には、中国地質大の頼旭龍副校長をはじめ、董范体育部教授や登山に参加予定の学生らが神戸大の福田秀樹学長を表敬訪問。福田学長は「厳しい国際情勢のなかで文化交流の重要性を一層強く認識している。大学としても全面的に支援する」と歓迎した。09年の登山にも参加したチベット人大学院生の徳慶欧珠さん(26)は「神戸大とは前回からいい関係にある。今回も一緒に成功させて、山岳部の100周年をお祝いしたい」と話した。

登山隊では今秋に偵察隊を派遣し、詳しいルートを決める。本隊の登山は15年9月下旬〜12月初旬の予定。同じ時期に、地質調査をする學術隊も派遣するという。(下司佳代子)